

②Watlork (ワットロック) 小学校

一人当たりの物資数

学年	生徒数 (人)	えんぴつ	赤ペン	青ペン	ノート
1年生	45	1本	1本	1本	120p×2冊
2年生	40	1本	1本	1本	120p×2冊
3年生	28	1本	1本	1本	160p×3冊
4年生	22	1本	1本	2本	200p×4冊
5年生	22	1本	1本	2本	200p×4冊
6年生	30	1本	1本	2本	200p×4冊
合計	187	187	187	261	120p×170冊 160p×84冊 200p×296冊

◎その他	A4紙 (成績表用)	2BOX
	バトミントンセット	1セット
	ボール	2個

◎校長先生へのインタビューでわかったこと

〈Daurng sdeurng 小学校〉

- ・午前4クラス、午後2クラス (学年ごとに1クラス) を教えていて、1週間ごとに午前午後を交代している。
- ・英語を教えるよう国から指定され教科書も配布されているが、英語を教えらる先生がいないため教えられない。
- ・現在使われていない古い校舎は壊す予定だが、現在はそのままになっている。
- ・ASSAR (フランスの支援団体) から校舎と遊具が支援された後に2年間訪問はなく遊具は壊れている。
- ・村の生活はよくも悪くもないという状況で、貧しくて学校にいけない子どもは少し。親とは連絡を取り合っている。
- ・小学校中退者は、両親とプノンペンへ行く場合や、学校へ行かずに仕事を手伝う場合、両親はプノンペンにおり子どもは村にいるが学校に行けない場合などがある。
- ・中学校進学者はテストを受け日本カンボジア友好学園に行く人が多い。進学できない子どもはプノンペンで働くことが多い。

〈Wat thlork 小学校〉

- ・たすきが支援した文房具は足りている
- ・去年の中学校進学率は40%、カンボジア日本友好学園には6人行ったが2人中退。
- ・60%がプノンペンの工場仕事（特に女性）、男性は建築系、ほかにタイへ出稼ぎに行く人や家でなにもせず遊んでいる人もいる。
- ・去年の中退者は10人。お坊さんになる子供もいる
勉強したくない、しにこない
生活が苦しいため3か月ほど休みを取って農業の手伝いをするなどの子供もいる
- ・銀行から借金をし、その返済の資金作りのためにタイやプノンペンなどに行く家族も
- ・小学校2年生でやめる子供が多い
- ・95%が農家で、全体的に農業があまりうまくいっていない
- ・たすき以外の団体からの支援は受けていない
- ・先生たちは今年の6月にある地方選挙（おそらく市長選）の手伝いをしており忙しい
- ・先生の数は6人（内一人病気）、ほとんどが農家と兼業
- ・教室が足りておらず、2つは壊れていて使えない、使用できる教室も雨漏りしている
修理費はもらっているが、655\$/年程度（国からの支給で学校の規模に合っている）
- ・先生の給料は220\$/月
給料が低いため教師を目指す子供はいない（モチベーションがない）



（↑ Daurng sdeurng 小学校）



（↑ Wat thlork 小学校）

2. Vannak さんの活動訪問

文責：松田かなえ

活動日：3月19日

活動メンバー：高橋尚子、松田かなえ

前回までは CCASVA という、飢餓や家庭内暴力から子供を守るため引き取って育てている施設に訪問してお話を聞いていましたが、CCASVA の組織形態や代表が変わったため、前代表であった Vannak さんという方に現在の活動についてのお話を聞き、現地案内もしていただきました。

◎Vannak さんのお話でわかったこと

○新しい活動の概要

HEAP

- ・内容：スラムの子供への教育、主に英語教育。親への啓蒙活動
- ・場所：キリングフィールドの近くのスラムに教室がある
- ・月曜～金曜、100人程度の子供
- ・5人のスタッフで運営しており、内3人はボランティア
- ・授業料は家庭の経済状況によるが、ある家庭は2-5\$/月、貧しい家庭は無料
- ・親への啓蒙活動として教育の大切さをわかってもらうためカウンセリングを行っている
- ・運営はオーストラリアやイギリスからの（個人的）寄付によってなりたっている
- ・能力別で3つのレベルに分かれており、テストで分ける
- ・昼に2部+夜大人のための英語学校（8-11\$/月）
- ・将来の仕事のためや、公立学校で教えてもらえないこと、クメール語はに非常生活で身に着けることができるという理由から英語学習の重要性を強調

○スラムの状況

- ・スラムの家庭の親はゴミ拾いで生計を立てており、子供もその手伝い
- ・頻繁に引っ越しを行うため学校に行かせることができない
- ・親は学校の重要性を認識していない
- ・村から出稼ぎで出てきている子供や都市の貧困地区で生まれた子供など様々



(↑ → 学校の様子)



(↑ムスラムの様子)



3. CHA 訪問

文責 高橋尚子

活動日：3月17日午後

活動メンバー：高橋尚子、松田かなえ、Pho Do、Sin Rom

CHA (Cambodian Handcraft Association) は、地雷被害やポリオの後遺症などが残る女性に対して、手芸、裁縫などの技術を教えつつ、彼女らが社会的に復帰出来ることを目指すNGOです。技術の他にも、宿舎を提供し、共同生活を送り、一般教養の授業を行っています。首都プノンペンのトゥールスレン博物館近くにあるCHAの事務所兼店舗に赴き、代表の Hay Kim Tha さんにお話を伺いました。

CHAで働いている女性達はとても元気に活動しているようで、手を少し休めて私たちに話しかけてくれる方もいれば、作業に集中している方もいました。日本人の元スタッフががいるため（活動日は日本に帰国中）、日本からの通信販売も多くなっているそうです。日本から品質の良いパールを輸入し、カンボジアシルクで加工したアクセサリーなどは目玉商品になっているようです。

CHAで訓練を受け、一定期間共同生活を行った女性は、申告すれば帰郷することも可能ですが、家庭の問題や、田舎に帰ると職がないという現実から、CHAにとどまり仕事をつづける人も多いようです。CHAの運営費は商品の利益から返上されるため、Kim Tha さんはもっとたくさんの人にCHAを知ってもらうことが必要だと感じているようです。私は、今回でCHAを訪れるのは2回目ですが、前回（2016年）よりも商品数が増え、また、商品の種類も多岐にわたるようになり、大変な努力をされているな、と感じました。



(作業中の様子)



アジア教育支援グループ たすき

会計報告 2016 年度 春渡航(2017 年 3 月 14 日～2017 年 3 月 21 日)

報告 高橋尚子

【1】小学校への配布、支援

小学校全体

学年	生徒数(人)	えんぴつ (本)	赤ペン(本)	青ペン(本)	ノート
1 年生	89	89	89	89	
2 年生	80	80	80	80	
3 年生	69	69	69	69	
4 年生	64	64	64	86	
5 年生	60	60	60	120	
6 年生	58	58	58	116	
合計	420	420	420	602	120p × 338 冊 160p × 375 冊 200p × 560 冊

【2】Vannakさんへ

	数量
えんぴつ	10
青ペン	19
赤ペン	10
120 ページノート	2
160 ページノート	15
200 ページノート	20

【3】支援物資の会計

品目	単価(リエル)	数量	金額(リエル)	金額(\$)
えんぴつ	150	430	64500	16.125
青ペン	200	620	124000	31
赤ペン	200	430	86000	21.5
120pノート	600	340	204000	51
160pノート	800	390	312000	78
200pノート	1000	580	580000	145
A4 コピー紙	12000	2	24000	6
バトミントン	20000	2	40000	10
ボール	4000	4	16000	4
合計			1450500	362.625
			端数処理後	362 \$

リエル/\$レート 4000 リエル/\$